

# 挑む

モノづくり ヒトづくり

「製造で注力している」とは何ですか。

「すばり安全設計だ。構造解析や強度計算するコンピュータ利用解析（CAE）を導入して安全設計に取り組んでいる。サイン設置は地域や自治体によって高さや風速の関係などで基準がある。当社は安全性が確保できるまで製品を補強する。面積が広いサインは台風などの負荷が大きい。

オオサカネーム（福岡県志免町、井手隆二社長）は、金属製サインの総合メーカー。法人向け看板や案内板、標識、個人向け表札などの製造販売で全国展開する。ステンレスなどを溶接や曲げ加工する立体加工のほか、ステンレスや銅、チタンなどのレーザーカット加工を手がける。田中誠亮取締役製造本部本部長に製造や人材育成の現状と展望を聞いた。（西部・勝谷聡）

「材料費高騰にはどう対応していますか。」

「値上げせざるを得ない部分もある。しかし（自動努力としても）2022年



オオサカネーム  
取締役製造本部本部長  
田中 誠亮氏

## 大型サイン、CAEで安全設計

11月から部門別のコスト削減を実施している。例えば、看板製作の元原稿に使うユポ紙は22年7月の10%値上げにもかかわらず、部分製作などの工夫で22年10月～23年6月は前年同期比6.4%削減した。大型看板の運送もチャーター便から通常出荷便に変更して、23年2～6月は前年同期比18.7%削減を実現した」

— 人材育成のポイント

「教育カリキュラムを22年秋から作成中だ。昭和の時代のような『先輩の背中を見て学べ』といった教え方は、今の時代にそぐわない。健康に配慮し技能や技術を丁寧に教えて、しっかりと導く。コンプライアンス（法令順守）や情報セキュリティの大切さも学習する。階層別教育も計画する」

— 今後の取り組みは。

「研修内容は、より製造現場目線の内容に切り替える。若手中心のカリキュラムを作成し、若手が仕事や会社によりがやいや誇りを持てる内容に変えていく。攻めの営業に向けて製造と営業の部門の壁を取り払う。相互の情報共有化がカギだ」